

1年 算数科「たしざん(2)」の実践

繰り上がりのある足し算を学びました。繰り上がりのある足し算では10のまとまりをつかって考えました。本時では、繰り上がりのある足し算の計算の仕方を考えました。

○ タブレットの活用場面

対話をして、考えが深める場面

説明を何度も見返すことができるように、タブレットを使って説明の様子を録画しました。動画をロイロノートスクールの提出箱に提出し、友達の説明を聞いて真似しました。いろいろな人の説明を聞いて、より分かりやすい説明の仕方を考えました。

○ 授業の様子(アンダーライン:今後の課題)

授業の始めに既習事項の確認として、繰り上がりのある足し算をするときは、「10のかたまりをつくる」という合言葉を確かめました。計算の仕方を説明するときに、「10のかたまりをつくる」という合言葉を使うことを条件にしました。

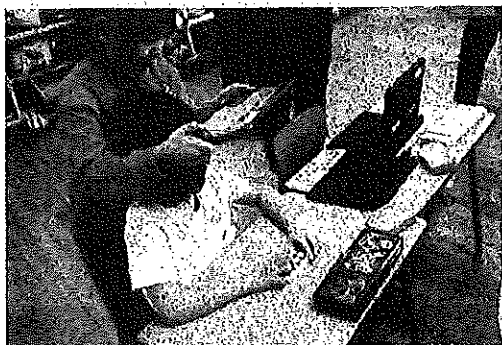
一人で考える場面では、 $7+4$ の計算をするために、初めに7と4の数図ブロックの並べ方を確認しました。ほとんどの児童が7と4を正しく並べることができました。 $7+4$ の説明をするときには、数図ブロックを動かしながら考えていました。そのときに、「初めに」「次に」などの言葉を使っている姿も見られました。

ペアで撮影をする場面では、一人で考える場面で練習した通りに数図ブロックを動かしながら説明している様子をお互いに撮影していました。その後、提出された友達の動画を観て真似をする活動をしました。再生と停止を繰り返しながら数図ブロックを動かしたり、説明を口に出したりする姿も見られました。

全体で考える場面では、数人の動画を観ながら、全員で真似をし、分かりやすいところを探しました。一人目の発表から少しずつ足りない言葉を付け加えていき、最終的に完成したものを「足し算の呪文」として、 $7+4$ の計算の仕方を説明しました。

練習問題を解く場面では、 $6+7$ の計算の仕方を説明しました。算数が得意な児童は、自分で考えて説明をしていました。一人で考えることが難しい児童は、板書してある「足し算の呪文」の穴埋めをして説明していました。ほとんどの児童がどちらかの方法で $6+7$ の計算の仕方を説明することができていました。

今回は、タブレットを使って動画を撮るという方法を使いましたが、児童が自分にとって最も効果的な手段を選んで説明できるように今後も様々な方法を使っていきたいです。



【友達と撮影をする様子】



【友達の動画を観ながら真似をする様子】